

日本金融学会の活動 : 2022 年～2023 年

東京大学 福田慎一

私が会長に就任した 2022 年度の最大の課題は、コロナ禍からの正常化でした。他の学会と同様、日本金融学会でも新型コロナウイルスの感染拡大のため、2020 年度春季大会から 2021 年度秋季大会までの計 4 回にわたる全国大会は、全面的なオンライン開催を余儀なくされました。2022 年度も、依然として感染拡大への懸念が残るなか、通常通りの全国大会開催は断念せざるを得ませんでした。しかし、開催校をはじめ様々な方々のご尽力により、2022 年度春季の成城大学と秋季の神戸大学は、初日はオンライン開催ながら、二日目は対面とオンラインのハイブリット開催にこぎつけていただきました。

日本金融学会は、研究者のみならず官界、実業界など金融に関心を持つさまざまな人々によって構成されている組織です。1943 年の金融学会設立趣意書にも、「惟ふに金融に関する理論及び政策の研究は、学者及實際家の提携の下に、総合的に之を行ふことによって最も善くその目的を達成し得べし」と述べられています。今日の金融・資本市場において、設立趣意書で述べられた理論・政策・実務の統合・連携は以前にも増して不可欠となっており、そのための交流の場としての学会の役割はますます重要になっているといえます。このため、全会員が集う全国大会に対面で参加して、その場でしか得られない新たな知見を共有することは不可欠といえます。

幸い 2023 年 5 月からは、新型コロナウイルス感染症の位置づけがこれまでの「2 類相当」から「5 類感染症」に移行いたしました。このため、日本金融学会でも、2023 年度春季の一橋大学は一部ハイブリッドの対面開催、秋季の九州大学は完全な対面開催にこぎつけていただきました。日本金融学会でも、コロナ禍からの正常化が進められたといえます。ただ、その実現には、開催校をはじめ関係者の方々のさまざまなご尽力があっはじめて実現可能となったことも事実です。ここに、心より感謝を申し上げます。

奇しくも 2023 年は、日本金融学会が設立されてから 80 周年となる節目の年でした。日本の金融・資本市場が大きく変容を遂げるなか、多くの学会員のご支援によって学会活動が時代を超えて発展を遂げてきたといえます。80 周年記念事業としては、『日本金融学会 80 年史』の編纂に加えて、一橋大学で開催された春季大会で米国コロンビア大学の伊藤隆敏教授の特別講演が、また九州大学で開催された秋季大会では日本銀行の植田和男総裁による特別講演が対面で行われました。特に、学会員でもある植田総裁には、日本銀行総裁という視点だけでなく、研究者としての視点から、「中央銀行の財務と金融政策運営」という演題で造詣深いご講演を学会員向けにさせていただきました。

これまでも歴代日本銀行総裁には、学会創立の際に発起人メンバーになっていただいて以来、節目節目でご講演をいただいて参りました。特に、創立 40 周年大会（1973 年春季、一橋大学）では当時の前川春雄総裁が「日本銀行の使命—第二世紀を迎えて」というテーマ

で、また 60 周年大会（1993 年春季、東京大学）では当時の福井俊彦総裁が「金融政策運営の課題」というテーマでそれぞれご講演をいただきました。80 周年大会でも、植田総裁に時宜を得たテーマでご講演をいただけたことは、今後学会活動をさらに発展に向けた新たなマイルストーンとなったと思います。

近年、少子高齢化の進展から、日本の多くの学会では会員数が徐々に減少するという現象が共通してみられています。日本金融学会も例外ではなく、長い目で見ると会員数が少しずつ減少するというフェーズに入っているといえます。しかし、金融環境が激変するなかで、あるべき方向性を示す学会の役割はこれまで以上に重要となっています。このため、今後も日本金融学会では、学会活性化のための試みを引き続き行っていく必要があります。

現在検討中の学会賞や名誉会員の創設は、そのような試みの一環です。また、2024 年度秋季は、特に開催校をお願いせずに全国大会を沖縄ベンションセンターで開催することを決定しました。それら新しい試みの実現には、財政面などさまざまな制約があることは事実です。ただ、学会員の皆様のご協力を得ながら制約を突破し、今後もさらなる新事業の展開が以前にも増して充実したものとなることを目指していきたいと思えます。